

## 目 次

一、キリシタンの信仰 .....	1
二、明治・大正・昭和の伝道 .....	5
三、日本人の宗教観と世界観 .....	15
四、日本人と聖書 .....	24
五、先人の知恵 .....	32

# 福音と日本文化

中尾フィリップ

「文化」とは、ひとつの民族や国、また、一定の地域、あるいは、特定の時代の人々の生活習慣から生まれるものですが、その根底には「宗教」（信仰）があります。日本の文化は日本の「宗教」、また日本人の「信仰」によって歴史を通して形作られてきました。聖書の福音を信じ、それを広めようとするとき、日本の文化や、その根底にある日本人の宗教意識や信仰観を理解することは大切なことです。日本人はどのようにして、福音を受け入れるようになったか、キリシタンの時代からはじめて、歴史をふりかえり、そこに見られる日本人の宗教意識について考え、それに対してどのように福音を伝えることができるかについて、若干の提言をしてみたいと思います。

## 一、キリシタンの信仰

### キリシタンの信仰

日本に最初に福音をもたらしたのは、フランシスコ・ザビエルで、それは1549年のことでした。福音は公卿（くげ）や大名ばかりでなく、一般の民衆にも受け入れられ、多くのキリシタンが生まれました。1582年にはキリシタン大名の名代として4名の若者がローマ教皇に謁見するため、ローマに派遣されています。

彼らが帰国した1590年には秀吉が天下人となってい

て、長崎で26聖人の殉教などがありましたが、キリシタンの数は増え、1600年、関ヶ原の戦いの頃、その数は40万人に達していたと言われていました。

しかし、家康の時代にはキリシタン迫害が本格化し、江戸で宣教師が処刑され、踏絵が行われ、キリシタン禁書令が出されました。1637年の島原の乱の後、江戸幕府は鎖国体制に入り、それとともにキリシタンはさらに厳しく取り締まられるようになりました。

よく「キリスト教は日本人には向かない」と言われますが、それは権力者によって禁教政策が取られ、反キリスト教的な態度が植え付けられたためで、最初に福音に触れた日本人は、それを受け入れ、そのために命さえも投げ出すほどの堅い信仰を持ったのです。福音は、日本人を含め、あらゆる人を救う神の力です。そのことを確信して日本人に福音を語り続けたいと願っています。

## 清水宗治の死

秀吉は毛利方、備中高松城の主将清水宗治（むねはる）の抵抗に手を焼き、高松城が低湿地にあることに目をつけ、大規模な堤防を作り、川の水を城に向けて流し込みました。梅雨の時期でもあり、高松城は城内まで水浸しとなり、湖の中の孤島のように became.

この時、本能寺の変が起きました。信長の死を知った秀吉は毛利との和睦を急ぎ、和睦の条件に宗治の切腹を求めました。宗治は自分ひとりの死によって毛利家の領土が保たれ、高松城にいる五千の兵と領民が救われるのならと、それを受け入れました。城にいた一同はその

ことを聞いて泣きむせびました。それは、宗治の死によって自分たちが救われて良かったといった利己的なものではありませんでした。宗治の将として、また武士としての真実な思いに対する感動の涙でした。宗治の死は秀吉はじめ敵方の武将たちにも賞賛されました。

私は、こうした歴史の物語を読むたびに、キリストが人々の救いのために命をささげられたことを思います。もちろん、宗治の死は、神の御子イエス・キリストの尊い死とはくらべものになりませんが、それでも、それはキリストの身代わりの死を理解させるのに役立つものであると思います。日本の文化にはキリストの福音の輝きを暗くしているものがありますが、同時に人々の目をキリストに向けさせるものもあります。すべての人の主である神は、日本の文化の中にも、福音を理解する手がかりを与えてくださっていて、まことの神を知らずに育った私たちであっても、福音を理解する手がかりを与えておられるのです。

### 米沢の殉教者たち

キリシタンの殉教では長崎の「二十六聖人」（1597年）が有名ですが、それから30数年後の1629年1月22日、米沢で上杉家の重臣、甘糟右衛門をはじめとして53名のキリシタンが処刑されています。

米沢の処刑場までは一里、一時間ぐらいの距離ですが、殉教する人たちがそこに着くのに、その日は4～5時間もかかりました。米沢の領民たちがみな、別れを告げるために出てきたからです。彼らは、それほど人々に慕

われていました。刑場で処刑を執行する奉行がこう言いました。「皆の者、ここにおる人たちは、信仰のためにこのようなことになったが、この人たちが何をして来たかは、われらが一番良く知っておる。らい患者を世話し、子どもや年寄りのために尽くし、米沢の領内で無くてならぬ人たちである。しかし、今、時代の流れはこの人たちがキリストを信じることを許さない。だが、われらにしてみれば、この人たちはまるで仏様みたいな人たちなのだ。だから、皆、土下座してくれ。」

為政者はキリシタンを嫌いましたが、民衆は、たとえ信仰は違っても、キリシタンを尊敬していました。信仰によって築かれた人格、そこから生まれた善行は誰も否定できなかつたからです。それで米沢の人々は自分たちのために死んでゆく人々に土下座して詫びたのです。

私は、このように純粋な信仰を持った日本人を尊敬し、誇りに思います。

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

[www.penguinclub.net](http://www.penguinclub.net)